

「江戸城天守の再建をめざして」

認定 NPO 法人 江戸城天守を再建する会理事 土屋 繁

●講演者

土屋 繁 (つちや しげる)

略歴

慶應義塾大学法学部，同大学大学院政治学研究所修士課程修了．毎日新聞社入社，同社政治部編集委員，成蹊大学非常勤講師，中国山東省・維坊学院大学副教授，社団法人アジア調査会参与などを経て，現在，認定 NPO 法人・江戸城天守を再建する会理事．著書に「自民党派閥興亡史」，「日本を決めた政治家の名言・妄言・失言」がある．



●講演概要

徳川の江戸城は，天正 18(1590)年の家康関東入城後，第 3 代将軍家光に至る数回の工事で完成しました．天守は，慶長度(1607 年，家康)，元和度(1623 年，秀忠)，寛永度(1623 年，家光)と 3 度築かれ，中でも「寛永度天守」は天守の歴史上，高さ(台座を含め約 59m)，規模とも史上最大で美しい城郭建築といわれています．しかし，太田道灌が江戸城を築いてからちょうど 200 年後の明暦 1657 年の大火で焼失し，今の皇居東御苑に遺る「天守台」だけは，加賀藩主・前田綱紀により修築再建されましたが，天守は今日まで再建されることはありませんでした．

私たちはこの天守台に，創建時の伝統的工法に基づく木造の「寛永度天守」の 2020 年再建を目指しています．

4 代将軍家綱を支えた会津藩主・保科正之は，明暦の大火の 2 年後，「天守は城の要害に利あるものではなく，ただ遠く観望する迄のことで，(武家町民が大災害で難儀している中で)公儀の作事を長引かせ国財を費やすべき時節ではない．当分御延引然るべし」と，天守再建に賛成しませんでした．しかし，新井白石が正徳 2(1712)年に，天守再建計画を提出します．この時の「建地割」図が 1 枚遺され，この図面を根拠に天守再建運動を進めています．

世界の大都市には，ロンドンのバッキンガム宮殿，パリ郊外のヴェルサイユ宮殿，北京の紫禁城，ニューヨークの自由の女神など，歴史と伝統と文化の象徴というべきモニュメントがありますが，東京にはそうした記念碑がありません．

観光立国日本の首都東京に，天守を再建することは，クールジャパンで世界を魅了する新たな日本の文化と技術を発信するためのシンボルタワーを建設することにもなります．

また私たちの運動は，“地方創生”の一環とした，各地の「城郭再建」運動への支援にもなると思います．